

ほんこのころろ

きもだめし

今から四十年前
本町子供会で
夏休みの行事といえは
きもだめし

それも場所は
一人で行って
ここに戻って
くっつく

本町にある墓場
おっかねな
なじやすっぺ

それも怖さを追求して
オハケ役の人は
居なく
無人の墓場

おっかなくて、オシッコむぐしうになつと



今、まちの気になること
しらがわの新しい波

Shirakawa New Wave

まちで話題となっている新しいトレンドをレポート!

Keyword 観光人力車

Trend

鎌倉・京都・浅草・伊豆伊東など、風雅なまち並みが残る観光地には必ずと言っていいほど「人力車」があります。

本市で初的人力車を営業するのは「新風亭」の遠藤良一さん。遠藤さんは富岡町夜の森公園で人力車を使った観光業を営んでいましたが、原発事故により一時は断念。落ち込む気持ちのなか、気分を一新させたのが歴史のまち白河との出会いでした。

7月2日の新風亭開業セレモニーでは、「城下町白河で新たなスタートが切れました。精一杯頑張りたい」と意気込みを語りました。

人力車は城山公園の周遊コースのほか、市内の史跡を自由に巡るコースも用意しています。

財白河観光物産協会 ☎1147

輝きの記録



第一三共ヘルスケア・レディース2012
第35回全国レディース卓球大会出場

7月27日～29日 / コカ・コーラウエスト
スポーツパーク (鳥取県鳥取市)

入谷みちこさん (右) ・ 吉田強子さん

2012北信越かがやき総体出場

7月28日～8月20日 / 東北電力ビッグ
スワンスタジアム (新潟県新潟市) ほか



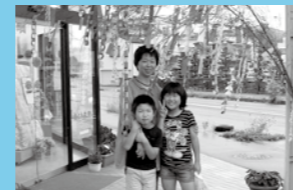
■白河高
▶出場種目
ソフトテニス・
剣道・陸上・山
岳



■白河旭高
▶出場種目
剣道

皆さん ハイ・チーズ!!!

7月7日、ふとんハウ
ス若松屋さんの七夕まつ
りの一コマ。約60人が
願いを込めた色とりどりの
短冊が飾られました。



「147ヘルツの警鐘」 新刊発表記念

Special interview

川瀬七緒さんスペシャルインタビュー

本市出身の作家で、しらかわ大使の川瀬七緒さんが江戸川乱歩受賞後、第1作となる長編ミステリー小説「147ヘルツの警鐘」を発表しました。

新刊の魅力・エピソードについて、川瀬さんが広報白河のインタビューに答えてくれました。

■新刊の内容について教えてください。

日本ではあまり馴染みがないですが、欧米ではすでに確立されている「法医昆虫学」がテーマです。法医昆虫学とは、簡単に言ってしまうと、生き物の死骸について虫を解析する学問で、死の状況や時間などを的確に予測していくというとても特殊な分野なんですね。たった10分で「死」を嗅ぎつけることのできる虫は、真の第一発見者になるわけです。

法医昆虫学が、日本の警察捜査に初めて取り入れられる。物語はそこからスタートし、従来の捜査をする刑事と法医昆虫学者の二方向から、事件の真相にせまっていきます。気持ち悪そうという声も聞こえてきそうですが、生き物の生態を知れば、誰もが嫌う害虫にさえ妙な愛しさを覚えるはずですよ(笑)。タイトルにある「147ヘルツ」とは、ある虫の羽音の周波数です。

■前作「よろずのことに気をつけよ」を継承、さらに発展させたことや新作の登場人物について教えてください。

前作とはまったく別の話ですが、専門分野を突き進んだ先に真相が見える、という点は継承しているかもしれません。作中の法医昆虫学者が相当エキセントリックな人物なので、究め方の面では発展もしていますね。全身全霊で虫の証言に耳を傾けようとする昆虫学者と、そんなよそ者を快く思えないベテラン刑事は、活字の中で好き勝手に動いてしまう困ったペアでした。

■新作の執筆にあたってのエピソードを教えてください。

原稿用紙に換算して、600枚以上ある長篇書き下ろしですが、執筆中はモチベーションが上がらないうつ状態に陥りました。参考文献を読んでいる途中で構想ができてしまいがちで、早く書きたくてうずうずしていたほどです。このむやみやたらな高揚感が、読者にも伝わってこれればいいな、と思っています。ぜひ、お楽しみください。

147ヘルツ の警鐘

法医昆虫学捜査官

川瀬七緒

■出版 講談社



KAWASE NANAO
■川瀬七緒さん

1970年・白河市生まれ。第57回江戸川乱歩賞
受賞作家・服飾デザイナー・しらかわ大使。
※写真は本市で講演された際の一枚

川瀬さんの
新刊は、市立図書館に設置される予定です

■市民の皆さんにメッセージをお願いします。

結局、環境を浄化できるのは自然界の摂理しかない。今回、執筆をしながら痛感したのがこれです。虫であれ、動物、草木であれ、命に義務づけられているのは「無」へ帰ることなんですね。いざさか宗教じみて聞こえますが、朽ちて何もなくなることが自然だと考えれば、半減期が数万年という物質を、あれこれと理由をつけて使い続ける異常さがよく分かります。私は極端な自然崇拝者ではありません。ですが、崩れた生態系を建て直すという生き物たちに、「福島を頼んだよ」と言いたい気持ちでいっぱいです。